

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日：9/4/2018

- 参加プログラム：北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学：北京大学・清華大学
- プログラム期間：8/19/2018 ～ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等：工学系研究科
- 学年(プログラム開始時)：修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由：
夏休み中で、ちょっと時間があります。
■参加を決めるまでの経緯：
参加する理由は、主に日中の技術と経済交流の現状と意義について学びたいです。私は修士課程を修了した後に、日本で就職したいと考えており、中国人としての優位性を発揮して、日本と中国の間の文化交流や経済発展に微力ながらお役に立ちたいと考えています。将来にこの夢を達成するために、今中国と日本の企業文化、日中関係、日中経済交流について学ぶ必要があります。こういうプログラムがある情報を見ると、夏休みでちょっと時間があるし、参加するのを決めました。

プログラムについて

■概要：
このプログラムは主に北京の日系企業や東京の中国系企業を訪問し、これらの会社の基本情報、海外で遭ったトラブル、運営策、中国と日本の違うところについて教えられます。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの：
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由：
せっかく他の国へ行くチャンスなので、もっと他の国の文化について体験したほうがいいかもしれません。北京なら、京劇をみるとか、故宮へ行くとか、中国の伝統的文化を体験したほうがいいです。
■週末の過ごし方：
プレゼンテーションがあるから、グループで相談しました。他の日は、友たちと一緒に北京の伝統的な食べ物を食べ、観光地へ行きました。

派遣先大学の環境について

■設備：
北京大学、清華大学に入る時、その学生が同行する必要があるの、必ず中国側の学生と一緒に入ります。今回のプログラムは、学校の図書館、スポーツ施設、PCを利用していないので、詳しくは知りません。プレゼンテーションがあるので、自分のPCを持ったほうがいいです。Wifiについて、ホテルにはWifiがあり、ホテル外でもネットを繋げるために、空港でWifiを入手するか、SIMカードをアマゾンで買います。
■サポート体制：
中国人の学生が多いので、中国語を勉強または練習したい人に対して、このプログラムはいい機会です。

学習について、このプログラムは主に北京の日系企業や東京の中国系企業、および日中経済関係の機関を訪問するので、直接会社の方と交流できます。中国語ができない人にとって、中国での生活はトラブルがある可能性があり、その時は周りの中国人に聞けば大丈夫です。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

中国にいる間は、ホテルで住んでいました。中国側で料金を支払いました。ダブルルーム、部屋はちょっと古いですけど、清潔さは問題ありません。エアコンが付いているけど、冷蔵庫、洗濯機がありません。東京にいる間は、東大生は家から通学します。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

中国の夏はすごく暑いので、夏の服を用意すればいいです。大学の周りは結構便利で、コンビニや、レストランはいっぱいあって、生活は便利です。周りに有名な中国料理店もあり、時間があれば試したほうがいいです。中国の物価は日本より安い、食堂で食べると、大体 200 円ぐらいです。交通は結構便利です。周りに地下鉄の駅があり、時間がない場合にはタクシーを利用してもいいです。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

中国では今は基本現金を使っていません。主に wechat pay と ali pay を使用しています。こういうオンライン支払いを使うために、日本のクレジットカードで本人認証が必要なので、事前に認証したほうがいいです。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

目的地の北京の治安は特に問題ありません。夜遅くで一人行動を避ければ、大丈夫です。せっかく北京へ行ったので、土日遊びに行く人が多い、でも北京は暑いし、観光客が多い、熱中症を注意すべきです。

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車

■プログラム期間中に利用したネット環境:

SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

このプログラムに参加するための提出資料は多くないので、基本は個人情報、あと参加したい理由、目的も聞かれます。二週間の短い交換プログラムなので、所属部局に提出必要な資料もありません。一つ注意すべきことは院生なら、指導者の許可が必要なので、申請する前にまず先生の許可をいただきます。

■ビザの手続き:

中国人なので、交換先の中国へ行くビザが要りません。「再入国許可」を忘れなければ、特に他の手続きはありません。

■医療関係の準備:

中国なら、普通の薬を買えます。もし特別の病気ではないなら、準備はいりません。
■保険関係の準備:
東大の規則に応じて、海外旅行保険(付帯海学)を加入すれば十分です。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
二週間の短期交換プログラムなので、単位をもらっていません。履修・単位・試験・論文提出について、どれもありません。
■語学関係の準備:
中国人なので、交換先の中国では言葉の問題がありません。普段ご飯を食べ、買い物に行く時、基本中国語で会話するから、一定の中国語を学んだほうがいいです。でも、基本グループで同行し、各グループ内で中国人最小一人がいるので、中国語は問題ではありません。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	102,400 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,320 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10,000 円
交通費	6,680 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO 奨学金	
■受給金額(月額):	
60,000 円	
■受給金額についての補足等:	
一回で6万円	
■奨学金をどのように見つけたか:	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意味、その他所感:

全体から見ると、このプログラムに参加し日中経済、日中関係、違う企業文化などについて勉強しました。有名な会社でも、海外市場へいくとき、政治、文化、人の好みなどが原因で、いろいろなトラブルが発生し、うまくいかない時もあります。違う環境に応じて、違う対策を作らなければなりません。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

今回のプログラムでは日本と中国の経済交流について学びました。私にとって結構有意義です。修士課程を修了した後に、日本で就職したいと考えており、その時、中国人としての優位性を発揮して、日本会社と中国会社の交流に貢献したいと思います。

■進路・就職先(就職希望先):

まだ決めていません。

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

多分こういう短期派遣プログラムに参加したいと思ったけど、短い時間なので本当に勉強できるかどうかを心配して、迷っている人がいると思います。私も最初こういう心配があった、でも実際参加した後は、本当に楽しい、そして有意義だったと思いました。違う環境を体験したり、新しい友たちができたり、有名の企業の社員と実際話したり、色々なことを体験できます。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

特にありません。google で検索すれば、必要の情報が出ると思います。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/4/2018

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 学際情報学府
- 学年(プログラム開始時): 修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏休みの真ん中は比較的暇です。
■参加を決めるまでの経緯:
企業訪問に興味がある。

プログラムについて

■概要:
基本的に企業訪問で企業の代表がプレゼンテーションをしてくださったが、先生からの授業は三つあった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
博物館と紫禁城に行きました。
■週末の過ごし方:
皆と一緒に北京の観光スポットに行きました。

派遣先大学の環境について

■設備:
Wifi Guest があるが、二時間だけ使える。食堂を利用するには北京大学の学生証が必要である。
■サポート体制:
北京大学の学生はとても親切で、いつもサポートしてくれた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
北京大学の学生とツインルームをシェアした。駅・北京大学から徒歩 15 分圏内のホテルである。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
北京の空気は、思っていたより綺麗でした。地下鉄はいつも賑やかだったが、とても便利でした。食事は美

味しかったし、安かった。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
Wechat pay か Alipay をお勧めします。現金は面倒だし、どこでもなんでもキャッシュレスで済むことができる。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
どちらかといえば、北京は安全だと思う。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車、バス、Didi Chuxing
■プログラム期間中に利用したネット環境:
SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
指示に従えばいいと思う。
■ビザの手続き:
中国人なのでビザが不要ですが、一週間ぐらいなら日本の方もビザ不要と思う。
■医療関係の準備:
特に準備をしなかった。
■保険関係の準備:
早く(出発の二週間前)申し込んだほうがいい。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
特にない。
■語学関係の準備:
特に準備をしなかったが、少し中国語がわかるならもっと北京を楽しむことができると思う。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:		
航空費	76,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,500	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等:		

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10,000 円

交通費	1,200 円
娯楽費	4,000 円
■その他、補足等：	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
傳徳林奨学基金
■受給金額(月額)：
60,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内、ネット上の情報や掲示物などから見つけた

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
毎日充実でした！
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
企業代表のプレゼンテーションは、将来の就職活動に役立つかもしれないと思う
■進路・就職先(就職希望先)：
公的機関、非営利団体、民間企業、文化産業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
他の参加者と早く連絡を取れれば安心になれると思う。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特にない。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/10

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01

■東京大学での所属学部・研究科等: 学際情報学府

■学年(プログラム開始時): 修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

I wanted to do something interesting during summer break.

■参加を決めるまでの経緯:

I decided to participate the program because I wanted to learn about the Japanese business in Beijing

プログラムについて

■概要:

We had readings before the program. We had lectures and company visits during the program.

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

I went to the Chinese national museum.

■週末の過ごし方:

I went to the Chinese national museum to learn about history and culture.

派遣先大学の環境について

■設備:

We had lunch at the dining hall. It was cheap.

■サポート体制:

nothing special.

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

The hotel was assigned. It was a bit old but clean.

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

There are several food places around the hotel but the location was a bit far from subway station.

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
Both cash and WeChat/Alipay are ok.
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
nothing special
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車
■プログラム期間中に利用したネット環境:
レンタルしたルーター、SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
Nothing special
■ビザの手続き:
Nothing special
■医療関係の準備:
Nothing special
■保険関係の準備:
I joined the insurance required by Todai.
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
Nothing special
■語学関係の準備:
Nothing special

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	88,210 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,090 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
参加費 30,000 円	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	23,000 円
交通費	5,700 円
娯楽費	10,000 円

■その他、補足等：

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
傳徳林奨学基金
■受給金額(月額)：
60,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
I learned about China and Beijing from a new angle. The development and localization of the business were really interesting and meaningful.
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
It made me think more about what I want to do in the future.
■進路・就職先(就職希望先)：
研究職、民間企業 I'm not sure now.
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
nothing special.
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
nothing special.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/4/2018

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 法学政治学研究科
- 学年(プログラム開始時): 専門職 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
定期試験が終わり、丁度予定が空いていたため
■参加を決めるまでの経緯:
大学院の掲示板にあったので、すぐに申し込みました。

プログラムについて

■概要:
中国における企業訪問では、多くのことを学びました。日本商会から聞いた、政府による対応のお話は、法律的な観点からも今後研究するきっかけ(中国における行政手続法等による裁量統制について)としても興味深かったです。また、セブンイレブンの事業展開は今後拡大の余地が広くて面白く、サラダ文化が広まっている追い風を受けたキューピーの企業訪問も勉強になりました。日本でも、普段訪れることのないような bilibili を訪問したりと、貴重な経験をできました。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
観光、海外の学生との交流
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
北京、東京それぞれで、海外の学生と一緒に観光したり食事したりしました。
■週末の過ごし方:
O2O の一例である 7fresh に一人で訪れたり、現地の友人と会ったりしていました。

派遣先大学の環境について

■設備:
基本的に大学の設備を使うことはなかった(教室を2回使わせて頂いた)。
■サポート体制:
先方のスタッフには特にサポートしてもらうような機会はありませんでした。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
案内があったもの

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
道路状況以外は、東京と変わらない生活環境でした。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
現金・クレジットカードよりも、QR 決済 (WeChatPay) を使う機会が多かった。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
東京で必要な注意と同様の注意をしていれば特に問題ありません。
■ 自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、didichuxing
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
国際交流課からの案内に従って提出した。
■ ビザの手続き：
ビザは不要でした。
■ 医療関係の準備：
特にしていません。
■ 保険関係の準備：
付帯海学に加入。
■ 東京大学の所属学部・研究科 (教育部) で行った手続き：
留学届を提出しました。
■ 語学関係の準備：
英語は TOEIC960 でしたがそこまで不自由はありませんでした。もう少し時間があれば、中国語ももう少し練習して行けたのですが…

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:		
航空費	65,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000	円
教科書代・書籍代	10,000	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等:		

■ 留学先で費やした生活費：

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等:
プログラム付属の奨学金
■受給金額(月額):
60,000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
5年前とは全然異なる、中国の生活環境を身をもって体験することができて、世界における中国と日本の立ち位置との認識をアップデートすることができました。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
将来、弁護士資格をとった後、できれば海外との関わりのある形で仕事をしていければという考えが強くなりました。また、海外の大学・大学院に留学したいという気持ちも強くなりました。
■進路・就職先(就職希望先):
専門職(法曹・医師・会計士等)、弁護士
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
ここまで手厚いプログラムは東京大学ではそうそうないので、興味がある方は是非申し込むことをオススメします。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
中国はグレートファイアウォール等の規制も多いし、WeChatPay 等の利用条件も日本人には厳しいので、事前に調べて行くことをオススメします。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/7/2018

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏休みで時間をとることが出来ると考えたから。
■参加を決めるまでの経緯:
就活がひと段落し、来年から海外で働く可能性を視野に入れて一度中国に行ってみたいと思い申し込みました。

プログラムについて

■概要:
中国にある日本企業でお話を聞きに行くというもの
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
短期のプログラムのため
■週末の過ごし方:
街に出かける。

派遣先大学の環境について

■設備:
基本的に広かった。
■サポート体制:
短期のプログラムのため特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学から提供を受けた。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

直射日光が強い。食事は美味しいモノも多かったし、かなり安い。200 円で大体食べられる気がする。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
外国人だったため電子マネーは使えず現金で支払った。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安はそこまで悪くないように感じた。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、キャリアの海外プラン

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
保険書類
■ビザの手続き:
短期滞在のため取得しておりません。
■医療関係の準備:
常備薬は必要最低限持って行った。
■保険関係の準備:
大学から指定されたものに加入した。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
教授に一言告げたのと教務課に旅行届を提出した。
■語学関係の準備:
TOEIC850 点レベルだが IELTS のスピーキングが 5.0 とかなり悲惨だったのでフィリピンに 3 週間語学留学に行った。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	78,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	3,000 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	6,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円

娯楽費	7,000 円
■その他、補足等：	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等：	
JASSO 奨学金	
■受給金額(月額)：	
60,000 円	
■受給金額についての補足等：	
■奨学金をどのように見つけたか：	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
自分の今の英語力がどの程度かを痛感させられるいい機会となった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
まだまだ海外で働くには英語力が足りていないと感じたのでこれからどんどん伸ばしていきたいと思うようになった。
■進路・就職先(就職希望先)：
民間企業、SONY
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
短期間のプログラムに参加することで、今の自分の実力を把握したり何かのきっかけをつかむことが出来ると思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
中国語の教科書、北京のガイドブックと東京の英語版ガイドブック

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/3/2018

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部

■学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

専門科目の学習をある程度進めた状態で、プログラムでの学習と相乗効果が狙えるだろうと考えたため。

■参加を決めるまでの経緯:

中国語で話す機会を得るのと、発展目覚ましい中国の状態を生で体感するため。参加を検討し始めたのはプログラム開催の前年からで、決めたのは新学期が始まった頃。

プログラムについて

■概要:

lecture 形式の授業は最低限で、複数の企業を回ってお話を伺うのがメイン。プログラム前半にアイスブレイクのための簡単なプレゼンと、最後に 20 分間のテーマ自由のプレゼンを、グループごとに行う。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

東京ラウンドでの観光案内

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

一人だけ 1 日早く東京へ帰っていたこともあり、北京側の学生が東京へ来た後は積極的に楽しめそうな観光名所をピックアップして案内するように心がけた。

■週末の過ごし方:

短期間のプログラムのため決まった過ごし方ではないが、北京側の学生が率先して観光案内をしてくれた。

派遣先大学の環境について

■設備:

食堂が複数あるが、中には質の悪い料理を出すところもあるようなので注意。とても大きなジムがあり、北京大生と一緒にに行けば使用できるようであった。

■サポート体制:

特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
プログラム側で用意していただいた。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は日本とそれほど変わらず、生活についても漢字が読めるため特に不自由することはないだろう。食事については脂っこいものが多いため、胃が弱い人は胃薬を持っていくことをお勧めします。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
Alipay や WechatPay の登録を済ませていくと、基本的にどこでも使えるためとても便利。外国人は本人確認などがやや複雑になるため、余裕を持って準備しておくと思う。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
短期のプログラムだったため、特に問題を感じるような状況にはならなかった。
■自由時間に利用した交通手段：
列車、DiDi
■プログラム期間中に利用したネット環境：
自前の中国国内のスマホによるテザリング

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
事前に保険に加入する必要があるため、余裕を持って手続きを行おう。
■ビザの手続き：
中国国籍のためビザは必要なかった
■医療関係の準備：
特になし
■保険関係の準備：
学校指定のものに加入することが必須
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
学部への渡航届けの提出が必要
■語学関係の準備：
日常会話レベルは話せたため、特に準備はしていない。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：		
航空費	80,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	6,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等：		

■ 留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	15,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	5,000 円
■ その他、補足等：	
■ プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給しなかった。	
■ 奨学金の支給機関・団体名等：	
■ 受給金額(月額)：	
円	
■ 受給金額についての補足等：	
■ 奨学金をどのように見つけたか：	

プログラムを振り返って

■ プログラムに参加したことの意味、その他所感：
今まで中途半端にしか話せないと思ってコンプレックスに感じていた自分の中国語と英語がそれなりに通用することがわかり、自信につながった。一方で会話の中での細かいニュアンスや、研究やビジネスといった専門的な内容をしっかりと伝えるにはまだまだ不十分であると認識できたため、自分の現時点でのレベルを把握できたことも有意義であった。中国社会への理解という点でも、すでに単純な生活の利便性という面では日本を凌ぐレベルまで達しているということが実感できた。
■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
中国は日本にとって市場、技術力、国際関係といった様々な側面で無視できない存在であると再認識でき、自分にはそれに関わるだけのバックグラウンドが備わっているとわかったため、今後就職をしてビジネスをしていく中で、何らかの形で中国に関わりがある仕事を絶対にしようという決心がついた。
■ 進路・就職先(就職希望先)：
民間企業、現時点ではコンサルティング業界を中心に考えている。
■ 今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
参加へのハードルは低い割に得られるものは多いので、少しでも興味を持った人は気軽に参加してみるといいと思います。
■ 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
ウェブサイトではないですが、中国にいくのであれば Wechat は絶対に利用した方がいいです。現地の学生との連絡はもちろん、日常生活のあらゆる物事が Wechat 上で行えます。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/17

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01
- 東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
3 月の春休み期間は就職活動に影響されそうだったため。
■参加を決めるまでの経緯:
中国で働くことに興味があったので応募を決めた。時期は 6 月ごろだったと記憶している。

プログラムについて

■概要:
日中両国でグローバルに展開する中国企業・日本企業について学ぶためのプログラムだった。国境を越えて働いている人に直接話を伺うことは個人ではなかなかできないので非常に貴重な機会だった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない、夕方以降は毎日のように遊んでいた。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
そこまでの時間がない。
■週末の過ごし方:
北京・東京観光

派遣先大学の環境について

■設備:
利用する機会がなかった。
■サポート体制:
特になかったが、不自由は感じなかった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学提供のホテル。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
北京大、清華大などの大学が多く集まる北京中心地の北西エリアに宿泊した。移動は地下鉄で不自由な

いが、終電が 11 時ごろには終わるのでそこは気を付ける必要あり。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
クレジットカードはほぼ使えない。自分は中国の携帯電話番号(+86)と中国の銀行口座を持っていたため、現地での決済は専ら Alipay を使っていた。現金は 10 日間の滞在中、数えるほどしか使わなかった。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安は心配に及ばない。音もなく後ろから走ってくる電動バイクと野犬に注意。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車
■プログラム期間中に利用したネット環境:
SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
成績書類、応募動機などを書類にまとめて提出。期日を守ることが大事。
■ビザの手続き:
14 日以内の滞在ならビザは不用です。
■医療関係の準備:
10 日程度の滞在なら特に必要なし。
■保険関係の準備:
海外に慣れていても保険代はケチらないほうがいいと思う。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
担当教授にサインをもらった程度。特になし。
■語学関係の準備:
英語の語学レベルは IELTS 6.5 程度だったが、あらかじめ不自由はなかった。予め配布された論文を読んでおくと理解が深まる。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	45,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10,000 円

交通費	2,000 円
娯楽費	3,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
60,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
参加前はもっと淡々と企業見学・成果発表が続いていくと思っていたが、毎日イベントづくめで本当に楽しかった。中国が日本にとって必要不可欠なパートナーであることを再確認できた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外で働くことに対するモチベーションが上がった。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業、商社、もしくはメーカー
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
迷ったらとりあえず参加してみたほうがいい。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
昨年半年ほど北京にいたので、下調べは殆ど行わなかった。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/3/2018

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
学部進学をして忙しくなる前に、一度中国に行っておきたかったから。
■参加を決めるまでの経緯:
もともと上海に住んでいたこともあり、中国についてより深く知りたいと思ったため。

プログラムについて

■概要:
中国における日本企業と日本における中国企業を訪問し、それぞれの担当者の方の話を聞くのが興味深かった。特に、云集機器というロボットを開発しているスタートアップを訪問したのはよい経験だった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
プログラム期間が短く、空いた時間は北京大生・清華大生との交流に用いたため。
■週末の過ごし方:
北京大生・清華大生と遊んだ。

派遣先大学の環境について

■設備:
広いキャンパスの中に食堂が 10 個近くあり、生徒が快適に食事をする環境が整えられていた。
■サポート体制:
語学面では英語のプログラムが存在している。そのほかについては短い期間なのでよくわからない。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
アパートなどの賃貸
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
2 人部屋でしたが十分に広く、快適でした。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
北京大学の近くのホテルに宿泊していましたが、天気は快晴で大気汚染も少なかったです。大学周辺は

治安は良く、飲食店やコンビニなども充実していました。交通機関は歩いて 15 分離れた場所に駅があります。食事については懸念された衛生面の問題もなく、自分の周りもお腹を壊した人はいませんでした。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
電子マネーが発達しているので、あらゆるものが全て wechat ペイで済ませられました。ただ現金も念のため持って行ったほうが無難だと思います。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
全く問題ありませんでした。治安は良く、夜道を一人で歩いても問題ないレベルでした。医療や心身については特に何もなかったもので、よくわかりません。
■自由時間に利用した交通手段:
列車、バス、滴滴出行
■プログラム期間中に利用したネット環境:
レンタルしたルーター、レストランの Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
成績証明・渡航前アンケート・語学スコアなど
■ビザの手続き:
特になし
■医療関係の準備:
特になし
■保険関係の準備:
付帯海学保険
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
特になし
■語学関係の準備:
HSK6 級 267 点

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	55,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	3,500 円
■その他、補足等：	

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	1,600 円
娯楽費	5,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等:
日本学生支援機構
■受給金額(月額):
60,000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
留学を真剣に考えるようになった。日本を相対化して考えるようになった
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
将来中国に関わる仕事につきたい、という思いがより強くなった。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業、起業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
悩んだら中国に行くといいと思います。文化的に近いだけでなく、優秀で真面目な学生がたくさんいます。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
Baidu

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/09

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

長期休暇であり時間が取れるから。

■参加を決めるまでの経緯:

去年の参加者の知り合いに勧められ、昨年から参加を決めていた。

プログラムについて

■概要:

全体を通じて発言をする機会が多く、日本にいないがしろにされがちな確固たる自分の考えを持つことが求められる。メンバー同士の距離が非常に近く、互いの国の文化や生活習慣を教えあったり意見交換をする中で、語学力や多角的な思考力、異文化理解が深まるようなプログラムである。プレゼンテーションが 2 回ほどあり、班で独自のテーマ設定をし発表する非常に自由度の高いものであった。自分達の班は独自の企業評価モデルを考え、発表した。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない、観光。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

観光を通じて多様なバックグラウンドを持つメンバーとの距離を深めた。

■週末の過ごし方:

比較的自由時間は多く、大部分を観光に使った。

派遣先大学の環境について

■設備:

食堂は食べ物の種類が非常に豊富で価格もかなり安い。

■サポート体制:

特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

生活するうえでの必要最低限の設備はあったように思う。部屋は比較的狭く、相部屋であった。シャンプー

とボディソープが 2 in 1 であったことには驚いた。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
日差しが強いが湿度は低く、過ごしやすかった。地下鉄が非常に便利であり、滴滴出行もつかえるので交通には困らない。朝食はホテルでバイキング形式（献立は毎日ほぼ同じ）、昼食、夕飯については中国側の生徒がいろいろと連れて行ってくれた。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
自分はアリペイを使用していた。wechat ペイがアリペイを使用する人が多く、財布を持っている人は少なかった。割り勘をする場面が多かったが、キャッシュレスであれば支払いが便利なので非常に助かった。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
特になし
■自由時間に利用した交通手段：
列車、滴滴出行
■プログラム期間中に利用したネット環境：
レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
国際交流課やガイダンスで明確な指示があったためそれに従って準備した。
■ビザの手続き：
中国籍であるためビザは不要だった。
■医療関係の準備：
常備薬のみ持って行った。北京の大気汚染は日本で騒がれているほどではないので心配なくて良いと思う。
■保険関係の準備：
東京大学指定の保険に指示にしたがって加入した。
■東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続き：
特になし
■語学関係の準備：
もともと日常会話レベルの中国語は話せたので特に準備はしていなかった。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：		
航空費	90000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	3,000	円
■その他、補足等：		

■留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	15,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	200 円
■その他、補足等：	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等：	
JASSO	
■受給金額(月額)：	
6 万円	
■受給金額についての補足等：	
渡航支援金 16 万円	
■奨学金をどのように見つけたか：	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
多様なバックグラウンドを持つメンバーと交流できたことで多角的な思考力が身につき、海外の友人も作ることができて語学力も高まった。非常に有意義なプログラムであったように思う。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
将来の長期留学や海外で働くことをより真剣に考えるようになったと思う。
■進路・就職先(就職希望先)：
民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
日本において中国は近いようで遠い国であり、メディアでは断片的な情報しか流されず批判されることがしばしばです。百聞は一見に如かずといいますがその通りであり、一度行ってみるときっと中国への見方が変わります。このプログラムに参加し多様なバックグラウンドを持つメンバーと交流できたことで多角的な思考力が身につき、海外の友人も作ることができて語学力も高めることができました。非常に有意義なプログラムだと思うのでぜひ参加してみてください。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
Go Global

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/28

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

1 年生の夏休みということで、久々に時間に余裕があったため。

■参加を決めるまでの経緯:

大学 1 年生の夏休みということで久々に時間にまともな余裕がとれると思ったので、何らかの短期留学プログラムに参加しようと5月頃に考えていて、現在第二外国語で中国語を学んでいるので実際に少しでも使えたら良いなと思い中国に行くこのプログラムに応募させていただきました。

プログラムについて

■概要:

北京にある日本企業を訪問してお話を伺い、東京にある中国企業を訪問してお話を伺い、最終日にプレゼンをしました。他にも、大使館を訪れたり工場見学したり教授の講義を聴いたりしました。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

チームメイトたちと観光

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

解散後は、同じプログラムに参加している学生たちと観光地にいったり一緒にごはんを食べたりして遊びました。仲が深められて良かったです。

■週末の過ごし方:

最終プレゼンに向けた話し合いを少しだけして、大半はプログラムメンバーたちと遊んでいました。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は工事中のため見学できませんでした。スポーツ施設はとても整っているように思いました。ジムも充実しているし、いろんなスポーツのための場所が用意されてありました。

食堂は生徒数が多いためか数が多く、また増設中でもありました。食堂はご飯の時間帯をすぎると一時閉鎖となり、またご飯の時間になると開店する形式でした。

■サポート体制:

体調など頻繁に気にかけてくださいました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
プログラムで指定されたホテルに泊まりました。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
夏真っ盛りでかなり暑かったです。大学周辺はレストランが多かったように思います。交通機関はおもに地下鉄を使い、たまにバスやタクシーを使いました。食事は中華料理ばかり食べていました。とても美味しかったです。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
中国の現金しか持っていきませんでした。現地学生は現金を持たず、WeChatPayなどのシステムを使っていたので、食事代など割り勘をするときとても大変でした。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
なるべく一人では行動しないようにしました。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、地下鉄
■プログラム期間中に利用したネット環境：
レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
プログラム参加希望理由書、奨学金申込書、渡航情報届などあまり pc メールをチェックしないたちなので国際交流課からの連絡を見過ごしてしまったことがありました。アドバイスとしては、頻繁にメールを確認するのが良いと思います。
■ビザの手続き：
中国(渡航先)国籍のためビザは不要でした。
■医療関係の準備：
普段使っている痛み止めだけを持っていきました。
■保険関係の準備：
東京大学で指定された留学保険に入りました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
特にありません。
■語学関係の準備：
TOEFL93 点でした。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	100,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円

海外留学保険料(東京大学指定のもの)	40,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
60,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
最初は不安でしたが実際に参加して特に困ったことも起きなかったしとても楽しく過ごせたので、前よりも自分に自信が持てるようになったと思います。また三大学の多様な友達と楽しい時間を過ごせたことがとても良かったです。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
久々に海外に行ってみて、とても楽しい経験ができたし自分に自信もついたので、海外に留学することや働くことに少し興味が出てきました。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、専門職(法曹・医師・会計士等)研究医か臨床医のどちらかに携わりたいです。
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
私はこのプログラムに参加して、いろいろな企業をまわって話を聞く貴重な体験ができたし、何より北京大・清華大・東大の学生ととても仲良くなれて楽しい2週間を過ごすことができました! phd からロースクール生まで、多様な学生と友達になれて良かったです。またプログラム中に普段とは違う慣れない環境で色々なことをしたことで、自分に対する自信が増えました。きっと楽しく素敵な経験ができると思うので、留学とか不安だなんて思っている方にも是非是非チャレンジしてほしいです!

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

Baidu

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/3/2018

- 参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>
- 派遣先大学: 北京大学・清華大学
- プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
夏休みだから。
■参加を決めるまでの経緯:
興味を持ったため 2 年生になった後に行こうと思った。

プログラムについて

■概要:
日中の企業を訪問
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
短期間のため
■週末の過ごし方:
なし

派遣先大学の環境について

■設備:
食堂を利用した。
■サポート体制:
良い。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学からの紹介

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
良い。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
なし。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
なし。
■自由時間に利用した交通手段:
列車
■プログラム期間中に利用したネット環境:
レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
成績表、英語能力証明志望理由など。
■ビザの手続き:
なし。
■医療関係の準備:
なし。
■保険関係の準備:
東大に従った。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
なし。
■語学関係の準備:
なし。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	100,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	10,000 円
交通費	2,000 円
娯楽費	2,000 円

■その他、補足等：

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
JASSO
■受給金額(月額)：
60,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
色々な人の話を聞いた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
海外に出ようと思った。
■進路・就職先(就職希望先)：
研究職、民間企業、起業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
英語か中国語はどちらかは最低限出来るようにしておきましょう。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
Go Global

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/4/2018

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

元々日中交流系のプログラムを探していたところ、友達に勧められたからです。

■参加を決めるまでの経緯:

友達に勧められて参加しようと思いました。他のプログラムと重複した場合に参加するか迷いましたが、結果重複せずにすみかったので応募を決めました。

プログラムについて

■概要:

企業の方による講演が中心だったため、日中双方の企業の社風や、個々の講演者の考え方を知れて興味深かったです。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

プログラム自体が短かったため、自由時間にはお互いの街を案内しあいました。

■週末の過ごし方:

周辺の名所を観光しました。

派遣先大学の環境について

■設備:

Wifi は繋がれなかったです。食堂は安くてコスパが良かったです。

■サポート体制:

常に wechat で参加者同士やスタッフの方と連絡を取れたので、特に困ることはなかったです。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

大学で予約してくれました。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は乾燥していたが、気温は東京より少し涼しいくらいでした。特に朝晩は過ごしやすかったです。また食事もおいしく、交通機関も便利でした。ただ一駅の間隔が長かったと思います。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
wechat pay かアリペイがあると便利です。向こうはキャッシュレスが進み、現地の学生は財布がないことが多いです。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
夏なので空気もあまり問題がなく特に注意点はなかったです。
■ 自由時間に利用した交通手段：
列車、バス
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
渡航情報届の記入や、プログラム料金・付帯海学の支払い、OSSMA の申請がありましたが、国際交流課からのサポートが充実していて、その指示に従えばほとんどの手続きは問題なく行えました。
■ ビザの手続き：
N/A
■ 医療関係の準備：
特になし。
■ 保険関係の準備：
渡航情報届を提出し、郵便物が届いたらその指示に従えば問題なく付帯海学の手続きが行えました。また、OSSMA 申請は前期教養のページから行えました。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
特になし。
■ 語学関係の準備：
中国語と英語がある程度話せると一層楽しめます！

費用・奨学金に関すること

■ 参加するために要した費用：		
航空費	90,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■ その他、補足等：		

■ 留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	7,200 円
交通費	500 円
娯楽費	2,000 円
■ その他、補足等：	
■ プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給した。	
■ 奨学金の支給機関・団体名等：	
傅徳林奨学基金、JASSO	
■ 受給金額(月額)：	
60,000 円	
■ 受給金額についての補足等：	
宿泊費	
■ 奨学金をどのように見つけたか：	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■ プログラムに参加したことの意義、その他所感：
現在の中国における若者の考え方について色々を知ることができ、また、日中を跨ぐ企業の方々が何を感じ、考えているか、どんな問題に直面しているかを知ることができることに意義があると感じます。
■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
日中間のビジネスについて一層深く知る努力をしたいと考えるようになりました。
■ 進路・就職先(就職希望先)：
専門職(法曹・医師・会計士等)、民間企業、公認会計士、もしくは日中を跨ぐ企業への就職
■ 今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
中国における生活、同世代の学生の考え方について知ることができ、また、貴重な友人もできて良かったと感じました。何より楽しいのでおすすめです。
■ 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
グーグルが使えないので、バイドゥが役立ちました。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/17

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

サマープログラムの日程が他の予定と重なっていなかったため。

■参加を決めるまでの経緯:

以前から中国に行きたいと思っていたので、中国に(奨学金をいただいて)行くことができ、中国の学生と交流し、さらに中国の日系企業を訪問することのできる、このプログラムは大変魅力的でした。
サマープログラムの説明会でこのプログラムを知り、香港大学の学生との交流プログラムと迷いましたが、そちらのプログラムは応募者が大変多く倍率が高いと聞き、今回のプログラムへの参加を決めました。

プログラムについて

■概要:

私が参加したプログラムの趣旨は「日中のビジネス関係を学ぶこと」で、中国の日系企業や日本の中国系企業をいくつか訪問しました。訪問を通じて、中国人の学生との考え方の違いを体感できたのが大変印象深かったです。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

短期間のプログラムで、そのような機会がなかったから。

■週末の過ごし方:

自由時間には、中国人学生と北京の観光(頤和園や国家博物館など)に行き、親睦を深めました。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館やスポーツ施設は利用しませんでした。北京大学には食堂がたくさんあり、夜遅くまで空いているところもあるので、夕食に利用したこともありました。

■サポート体制:

特にありませんでした。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
プログラムで指定されたホテルに宿泊しました。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
天候はだいたい晴れていて、雨が降ることもありましたが小雨程度でした。ホテルと北京大学とは歩いて行けるほど近く、近くに駅もあったので交通機関には困りませんでした。食事に関しては、朝食はだいたいホテルの食堂で食べ、昼食と夕食は中国の学生が連れて行ってくれたところで食べました。中国料理は日本で食べる中華料理と全く違って新鮮でしたが、概して大変美味しく感じました。また、中国では日本と比べて安く、たくさん(量も、種類も)食べられました。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
中国の学生は皆 Alipay, WeChatPay を利用しており、レストランなど、お店でのほとんどの支払いに電子マネーを使っていました。私は電子マネーを使えない(日本人が利用するのは少々難しい)ので、全ての支払いに現金を利用しました。電子マネーが発達した中国では、現金のお釣りをあまり多くは用意していないお店もあるので、小銭をいくらか用意したおいた方が便利です(レストランでの支払い形式は、中国の一人の学生がまず全額払ってから1人1人が電子マネーを通じてその人にお金を送る形式でしたが、私は現金を直接渡しました)。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
都市部ということもあり、治安は大変良かったです。ただ、信号を守らない車は多いので、信号をあてにせず、道路は気をつけて渡った方が良いです。また、中国ではついついたくさん食べてしまいがちなので、お腹を壊さないようにほどほどにしましょう。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
ホテルの WiFi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
プログラムへの参加にあたっては、「渡航情報届」などを提出する必要がある、提出期限も厳格に定められているので、きちんと期限内に書類を提出するよう心がけました。
■ビザの手続き：
ビザは取得しませんでした。
■医療関係の準備：
中国で慣れない医薬品を購入するよりも、普段使って慣れている薬を使った方が安心だと思うので、風邪薬や胃腸薬などの常備薬は持参した方が良いと思います。
■保険関係の準備：
海外保険は大変重要ですし、保険書類が届くまでに時間がかかることもあるので、早めに手続きを済ませると良いと思います。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
私は前期教養学部在籍していますが、特に必要な手続きはありませんでした。

■語学関係の準備:

私は第二外国語として中国語を選択していて、渡航時は、必修の語学の授業とインテンシヴコースを半年近く履修した状態でした。中国語学習には力を入れていたので、同程度の期間中国語を学習した人の中では高いレベルにいたと自負しています。プログラムに向けて特別に中国語を学習することはしませんでした。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	48,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	4,470 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	5,000 円

■その他、補足等:

Alipay や WeChatPay を使えない場合、現金で支払う場面が多くなるので、現金を多めに持っていった方がよいと思います(私はおよそ五万円相当の現金を持って行きました)。

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

JASSO

■受給金額(月額):

60,000 円

■受給金額についての補足等:

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

今回のプログラムを通じて、(初めての中国への渡航だったということもあって)「中国」というぼんやりとしたイメージが明確になりました。また、中国の学生との交流を通じて私の中国語の語学力が向上しただけ

でなく、中国の学生が普段どんな生活をしていて、世界をどう捉えているのか知ることができたので、このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
中国の社会がかなり発展し、(電子マネーなどの)一部においてはすでに日本を追い越しているのを目にして、将来中国がさらなる大国になるのだろうと感じました。10 年単位の将来を考えると、日本で働くよりも中国で働いた方が世界の最先端でいられるのだろうと感じたので、将来中国で働くという選択肢の現実感が増しました。
■進路・就職先(就職希望先):
未定
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
貴重な大学生の長期休暇をただ遊んで過ごすよりも、新鮮でインプレッシブなプログラムに参加した方がきっと楽しいですし、将来への糧になると思うので、ぜひ参加してみてください。1、2 週間で人生が変わるかもしれませんよ。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
特にありません。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/17

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 2018/08/19 ~ 2018/09/01

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

留学の期間が2週間と短く、滞在先も行き慣れている中国・北京であったので、入学してすぐである学部1年の夏休みが最も適していると思った。

■参加を決めるまでの経緯:

4月末に駒場で行われた留学説明会に参加した際、学業に影響を与えない短期間で中国に留学できるプログラムの存在を知ったことに加え、去年同じ留学に参加していた2年生の先輩からの強烈的な推薦もあって、5月の初旬には参加を決めた。その後は自分のような者が参加したことが本当に正しかったのかかなり懐疑的だったが、しぶしぶ参加した7月初旬のオリエンテーションで魅力的な仲間たちと出会い和やかな雰囲気にも包まれたことで考えを改め、やはり参加してよかったと思った。その後は最後までプログラムを最大限楽しむことが出来た。

プログラムについて

■概要:

プログラムの主体は企業訪問で、それに加えて教授のレクチャーや、キャンパスツアーなどを行った。プログラムの途中と最後でチームごとに別れ、中間報告(キャンパスツアーの成果)と最終報告(留学を通して聞き取ってきたもの)をパワーポイントによるプレゼンテーションで行った。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

滞在期間が2週間と短かったため、取り組むための時間がなかった。

■週末の過ごし方:

今回の滞在では1日分の休暇が与えられたので、現地のメンバー達と一緒に天安門広場、国家博物館、頤和園などを見学した。当初は紫禁城、万里の長城を訪問するつもりであったが、それぞれ事前登録が必要である、無駄に体力を浪費する、との理由で断念した。また、自分だけ中国で片付けられないといけない行政手続きがあったため、それも与えられた自由時間を活用して済ませた。日本に戻った後もそのメンバーたちを連れて秋葉原のゲームセンターで遊んだり、お台場や浅草、原宿などに観光に行ったりした。

派遣先大学の環境について

■設備:
レクチャーを受けた北京大学は東大本郷キャンパスを凌ぐ程の広大な敷地を有しており、至る所に自生していた柳の木と蓮の葉が印象的だった。これらは東大ではほとんど見かけない植物であるため、もし東大にも同じように植えられていたら、と羨望気味に空想した。北京大学と言えば、東大の赤門としばしば比べられる西門に加え、塔、湖、図書館(現在は工事中)が特に有名である。それ以外には、屋外テニスコート、バスケットコート、土産物屋、自動販売機、コンビニ、主要銀行のATM、政府によるプロパガンダ広告などを見かけた。また、至る所で設備更新のための工事が行われており、この国の研究投資に対する熱意を感じさせられた。特に印象的だったのは食堂であり、少なくとも5つ以上ある上に、豊富な種類の料理が手頃な価格で提供されており、昼休みに訪れた時は特に利用者が多く、かなりの熱気に包まれていた。またそれによって、普段は駒場にいる自分たちがどれだけ恵まれない環境の下で惨めな思いをしているかを痛感させられた。
■サポート体制:
2週間の滞在中に特別なサポートは受けなかったのが不明。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
ビジネスホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学側の手配で既に滞在するホテルは決まっていた。同じ留学先のメンバーとの2人部屋であった。設備は普通のビジネスホテル程度であり、テレビはあったものの、金庫や冷蔵庫はなく、やや不便であった。掃除やタオル類の交換は毎日行ってくれた。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
北京の夏は暑く日差しが強く、時に夕立が降って一気に湿度が上がることがあったものの、今年の東京のような酷暑に襲われることは無く、また夜は程よく気温が下がって涼しくなるなど、概して東京より過ごしやすい気候であった。大学から歩いて10分ほどの距離にホテルがあり、最寄りの地下鉄駅からも10分程度、バス停からは5分程度であった。北京大学は中国最高峰の大学だけあって、門の前で写真を撮る観光客が絶えなかった。食事については、あちこちのレストラン、フードコート、ラーメン屋、屋台などで中国各地の名物料理、家庭料理、ファストフードを堪能することができ、自分にとってはふるさとの味を思い出させるものでもあって、大変満足であった。本場の中華料理に慣れている自分は大丈夫だったものの、特に胃の調子が悪い人、油が苦手な人などは胃薬を持ち込んだ方が得策かもしれない。また大抵の場合料理の辛さは調節できるので、辛いのが苦手な人は前もってお願いするとよい。清涼飲料は時に常温で出てくるので、冷たいのが欲しい場合はこちらでも事前にお問い合わせ。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
近年の中国ではQRコードを用いたオンライン決済が爆発的に普及しているため、自分も今回の滞在ではウィーチャットペイを大いに活用した。中国側の身分証を取得した後、現地の銀行で口座を開設し、最後にスマホアプリと連携することでウィーチャットペイを使えるようになった。手持ちの現金を銀行口座に振り込んでそのまま支払いに使用できるうえ、送金機能を使うことで親からネット経由で送金してもらったり、他のメンバー達と食事に行った後割り勘をする際にも役に立った。結果として、決済全体の8割程度はオンライ

ンで済ますことができ、現金の出番はかなり限られた。その他には、北京市の公共交通機関を使うためには IC カード(一通)が必要だったので、こちらは知人のつてを利用して獲得した。滞在中に残高が切れたので、駅の自動券売機で現金 100 円をチャージした。

■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

治安については、最も恐れていたスリ被害を回避するために、肩から提げるタイプのポーチを用意し、財布、スマートフォンを含む貴重品はすべてその中にしまった。しかし当初想定していたほどの治安の悪さではなかったため、滞在後半には普通にズボンのポケットの中に入れることも少なくはなかった。その他に危険を感じたこと、例えば空港で見知らぬ人に声をかけられる、等の事態に遭遇したことは無かった。北京市のタクシーは非常に目立つ塗装をしているので、白タクの心配もなかった。また、滞在中に物乞いを2回程見かけたが、トラブルに巻き込まれる危険性もあったので、一切お金を渡さなかった。しかし、帰国した今改めて考えてみると、贖物を掴まされるリスクを考え、土産物の購入は正規店のみで行うなど、更に用心してもよかったと思う。医療事情については利用しなかったため詳細は不明。身体面の不調はおおむねなかったが、大学の友人や家族と離れることによる孤独感やホームシックを懸念し、それらを紛らわすためにも同じ留学先のメンバー達と積極的にコミュニケーションを取ることを心掛け、自由時間は極力一緒にショッピングや食事などに行った。

■ 自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス

■ プログラム期間中に利用したネット環境:

SIM、VPN

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き:

手続きの書類は基本的にオンライン上のフォームを埋める形式で行われたので、それをダウンロードして母親と協力して少しずつ用意していった。途中で準備した文書の規格が提出の際に要求されたものと合わずに慌ててしまったり、一時的に精神不安に襲われたためにメールを確認するのを怠ったりしたので、アドバイスとしては、時間に余裕をもって準備をすること、プリンターのトラブルを極力回避すること、メールはこまめにチェックすることなどである。

■ ビザの手続き:

自分は中国国籍と日本永住権を保有しているので、特別な手続きはほとんど必要なかった。外国籍を持つ者が一時的に日本を離れる際には、「みなし再入国」という扱いになり、1年間はビザや再入国許可が免除される。日本の空港で、出国審査の手前で書類(カード1枚)に必要事項を記入し、審査官に提出するだけで済み、それ以外は在留カードを要求されたときに提示する程度で事足りた(さらなる詳細はネットに記載されているので、出来ればそちらも参照してほしい)。

■ 医療関係の準備:

留学に際して健康診断も予防接種も特に行わなかった。常備薬としていつも使っている皮膚の軟膏を持ち込んだ程度で、他に胃薬なども用意したが、結果として使う機会は一切なかった。

■ 保険関係の準備:

大学側が指定する保険のみに加入したので特筆すべきことはなし。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

今回は留学に行ったのが学部1年の夏休みということもあり、成績関係の情報はほとんど分からなかったため、要求される単位などは一切なかった上、普段の授業日程に影響を与えることもなかった。そのため、唯一した手続きといえば国際交流課宛に準備した書類のコピーを教務課に見せに行くことだけであった。何のトラブルもなく留学を了承してくれた。

■語学関係の準備:

留学前から中国語、英語双方に関して会話レベルのコミュニケーションならそれなりに出来るのは分かっていたので、特別な対策は行わなかった。渡航前に積極的に親と中国語で会話すること、語学の授業を真面目に受けること、程度の対策にとどめた。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	90,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	6,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	10,000 円
交通費	2,000 円
娯楽費	10,000 円

■その他、補足等:

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

JASSO

■受給金額(月額):

60,000 円

■受給金額についての補足等:

傳徳林奨学基金により、中国に滞在する宿泊費は無料だった。

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意味、その他所感： プログラムを通じて、大学入学をきっかけにして見えなくなった将来のキャリアについて、ある程度具体的なイメージを思い浮かべることができるようになった。勿論完全に進路が決まった訳ではないが、将来に対するぼんやりとした不安は以前と比べてかなり減り、希望と自信を持てるようになった。たくさんの年上である大学院生と知り合うことで、学部1年の自分がまだとても若いこと、自分の人生における選択の機会は今から何度も訪れること、そのため今は迷って必要以上に思い詰めたり自分を責めたり焦ったりする必要はなく、ゆっくりと考えていけばよいことを身をもって学んだ。また、今回の留学では多くのかけがえない友人にも出会うことができた。学部1年のSセメスターは大学生活に慣れないこともあって良好な人間関係を構築することに大変苦労し、幾度となく寂しくつらい思いをしていたが、普段と違う土地で(同じ釜の飯を食うという言葉にある通り)何度も一緒に食事に出かけたり観光に連れて行ったり、災害に見舞われた際にはその対応を手分けして行ったことで、例えお互いに離れていても切れることのない深い絆を結ぶことができた。そのことは同時に、自分にとって大学生活における何ものにも代えがたい心の支えになった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響： 上記の通りキャリアについて未だ絞り込むことが出来たわけではないものの、学部後半になって本郷で仲間たちに囲まれながら電気や情報技術について学ぶ自分の姿を想像できるようになった。また将来の仕事については、AIを筆頭とした情報系の技術を活用することができる企業に就職しようと思うようになった。現在のところ、航空機や航空管制に関係する情報制御、あるいはデータを活用した都市の効率化などに興味がある。また、日本と中国の差異についても注目するようになった。市場の発展が見込みづらい日本、莫大な規模の潜在市場を持つ中国、更に一帯一路政策によりその市場がアジア諸国に拡大していくことを認識し、将来は仕事の拠点を日本国外(恐らくは中国)に構えることも考えるようになった。 また、自分は比較的会社の雰囲気や社風などといったものに流されやすく、それ故に他の人よりもそうしたファクターをもっと重視すべきなのだと思った。例えば大企業でも勤務時間が過酷であるところ、あるいは人間関係が希薄なところ、面倒で複雑だったりするところは極力避けると同時に、人間関係が緊密で社員同士、会社全体で仲の良い企業は中小企業であっても積極的に選択肢の一つとして考えるつもりである。
■進路・就職先(就職希望先)： 民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス： 留学前はその意義に疑問を持っていても、多少自信がなくても、実際に海外に行く経験を通じて考えが変わることも十分にある。学業に影響を与えずに外国に行ける機会には実際かなり貴重で、そうした環境が整っている東大は非常に恵まれている方だと思う。ぜひ臆せず、果敢に海外に挑んでほしい！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物： 中国旅行用のガイドブックを図書館で借り、巻末の注意点一覧を熟読した。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/4/2018

■参加プログラム: 北京大学-清華大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-PKU.html>

■派遣先大学: 北京大学・清華大学

■プログラム期間: 8/19/2018 ~ 9/1/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

1 年生から中国語を学んできて、やはり実際に使いたい。また、2S は比較的にかいてあるので、中国語の L 系列の科目が多く取れました。

■参加を決めるまでの経緯:

ガイダンスで話を聞いてからすぐ決めた。

プログラムについて

■概要:

講義、会社訪問、工場訪問、ゲストのレクチャー

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

レクチャーで中国や日本にある企業の将来、中国における日本企業の状況や問題点および戦略、日本に進出した中国企業の特徴や戦略、訪問で各会社の概要やビジネスモデルなども学べた。

■週末の過ごし方:

友達と観光地に行ったり、食事を一緒にしたりした。

派遣先大学の環境について

■設備:

美味しい食堂(注意:その大学の学生IDみたいなカードがないと買えない)

■サポート体制:

学生やスタッフに色々お世話になっていました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

ホテル

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

とても良かった、傳徳林奨学基金の支援で無料となるので助かりました。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
時々空気に敏感な人にとって、空気汚染に対して注意した方がいいです。また、中国では公道などでタバコを吸っている人は多いので、注意した方がいいです。敏感な人はマスクを準備しましょう。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
キャッシュレス化が進んだ中国にはアリペイかウェイチャットペがあつたら大変楽になると思います。もし中国の銀行口座を持っていないなら、中国人の友達から電子マネーを先に送ってもらうか、第三者のサービスを利用するか(これについて詳しくありませんが)。現金の場合は ATM で海外キャッシングできるクレジットカードを一番おすすめします。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
中国は自分が持ったイメージより安全でした。逆に、監視カメラも多かったし、各駅にも荷物などがチェックされますので、安全性はいいです。ただ北京の日差しが強いので、サンブロックとか用意した方がいいです。
■ 自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス、Didi Chuxing
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
やはり、お早めにした方がいいです。
■ ビザの手続き：
インドネシア籍である私は、ビザの手続きが必要だった。中国のビザ申請はなかなか東京代行店が混んでいるので、お早めにした方がいい。ということで、早めにプログラムの行程を教えて頂ければ問題ないと思います。今回は東京で取れなくて、ジャカルタで取れました。
■ 医療関係の準備：
特にありません。
■ 保険関係の準備：
特にありません。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
特にありません。
■ 語学関係の準備：
中国語がある程度日常会話できるレベルで本当に交流を楽しめられると思います。講義は基本的に英語で行われたが、会社訪問の際は時々中国語がメインとなっていて、個人的にもっと中国語ができれば理解度も深められるのではないかと思います。但し、中国語能力はなしでも実り多いプログラムだと考えます

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	60,000 円

派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	40,000 円
交通費	7,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
傳徳林奨学基金、東京大学海外派遣奨学事業奨学金(東京大学の奨学金)	
■受給金額(月額):	
60,000 円	
■受給金額についての補足等:	
傳徳林奨学基金によって北京での宿泊は無料となりました。	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内、ネット上の情報や掲示物などから見つけた。	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
中国のことをより詳しく知ることになった。一期一会のように、東大や北京大学や清華大学の友達ができ た。本当に 2 週間だけでファミリー感が感じれる。企業の創立および外国への進出成功から、様々な戦略 や考え方が刺激だった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
中国語が活かせる仕事または役割をしたくなる。いくつかの会社からビジネスモデルについて少し学んで から、もっとビジネスの大事さがわかるようになった。理系の学生として、研究しながらベンチャーもやりた くなった。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、起業。学生である内に開発のアイディアを探して、研究あるいは趣味で新しいものを作りたいと思 うようになった。やはり IT 系の時代がまた発展途上なので、人工知能や機械学習をこれから真剣にやりた い。というのは、将来の企業は絶対このような技術が応用できるからである。
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

折角短期派遣プログラムなので、精一杯この短い時間で活動だけでなく、交流にも頑張ってください！短期というと短い気がするが、きっと大丈夫！絶対後悔しない経験になると思う！この PTU18に参加してとても良かったと思っている。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：

特にない。